

◆ 上島 小学校の英語教育についてお聞きいたします。

新学習指導要領では、英語教育の体系が変更されました。会話をより重視した内容になったわけですが、これについてはさまざまな異論が出ているようであります。特に、小学校では英語よりも国語教育の充実が求められておりますが、私もそう考えます。小学校において英語授業が行われるのは総合的な学習の時間ですが、指導要領を見ますと、国際理解に関する学習の一環として、外国語や外国の生活や文化に親しむということを目的にしており、中教審答申も、文法や単語の知識を教え込むような方法は避けるようにしております。

しかし、小学校の中には、父兄の要望もありまして、英会話に力を入れようとするところもあるように聞きます。英会話を取り入れるのは各学校の裁量に任されているということですが、世田谷区としては国際理解という中の英会話をどのようにお考えか。私は、英語教育ではなく、あくまでコミュニケーションというとらえ方であるべきと思いますが、いかがお考えでしょうか、お答えください。

◎ 教育指導課長 多くの小学校では、総合的な学習の時間におきまして国際理解教育の一環として英語活動を行っております。この英語活動につきましては、委員がおっしゃるように英語という言語の学習ではありません。あくまでも国際理解教育の一環として行われるものであり、その内容は英語の歌やゲーム、また、英語を使ってのコミュニケーション活動などでございます。また、学校によっては、アジアやアフリカなど英語圏以外の外国人の方をお招きし、交流会を開いております。

区教育委員会といたしましては、中学に入学する前の小学生に英語に対する苦手意識を持たせることのないように適切な支援をしてまいりたいと思っております。

◆ 上島 西郷隆盛は、英語を話せなくても外国に対して堂々と表現できたといいますが、小学生であれば、身振り手振りで相手に気持ちを伝えるとか、言葉がわからなくても相手が何を言おうとしているのか理解しようとするのが重要なのかと思います。ぜひ本当の意味の国際理解教育の実施への配慮をお願いしたいと思います。

また、先ほど国語についても少し触れさせていただきましたが、確かに学説では、九歳、十歳までが言語習得能力の重要な時期であって、その中で外国の言語に触れることはよいことだとされています。しかし、その前提として、国語能力が備わっていなければ意味がなく、反対に逆効果とも言われております。文部科学大臣も二月二十日付で、国際化が進む中で、外国語を身につけるためにも国語力の重要性を指摘し、国語力を向上させる方策について提言を求めたところであります。なぜもっと早く取り組まなかったのかと思うばかりですが、国語という言語についてさまざまな意見がありますが、言語あるいは言語表現そのものが文化であるとか、国語教育は日本語そのものではなく文化を教えるのだという意見があります。

先日、ある小学校の公開授業を見に行ったときですが、小学校六年生のクラスでさえ、生徒が先生に敬語を使わず、友達と話すようにしていたのを見まして、私は大変驚きました。調べてみますと、最近、学校では平等意識で敬語を使わない教員が多く、また、生徒が先生に対しても友達言葉で話しかけても平気だというふうになっている方が生徒との関係がうまくいくと思っている教員が多いと聞きます。私の小学生のころはそんなことはありませんでしたが、私はさまざまな若者の問題の根源はそこにあるのではないかと推測いたします。

敬語は、敬意表現もしくは配慮表現とも言う方がおられるそうですが、幼少のころより敬意とか

配慮を生活の中で教えられなくて大人になって理解しづらいのは当たり前だと思います。会社でも敬語を使えず態度のおかしい新入社員がふえているとも聞いておりますし、何より、気配り、配慮は日本独特のものでなく、グローバルなものであり、国際化時代における日本人の言語運用能力としてさまざまな配慮の表現は重要であると指摘されております。

待遇は、社会に出て重要な資質の中心と言っても過言ではありません。世田谷区の児童生徒が立派に社会に出ていけるように、敬語を含めた言葉遣いにもう少し配慮すべきと考えますが、教育長の考えをお聞かせください。

◎ 教育長 確かにおっしゃるとおりで、最近では言葉の乱れとか、あるいは作文力の低下などが指摘されまして、書店などでもそれが多く売られているということが言われます。日本語の敬語というのは、大変美しい、日本の文化であろうと思います。これらを守ることは大切なことですし、最近よく気になるのは、テレビのアナウンサーあるいはそれに準じた人が間違ったアクセントとか、ら抜き言葉とかを平気で使っている、こういう点も気になるところです。

やはり小学生の段階から十分敬語などもしっかり教えなければいけないだろう。信頼の上での言葉のコミュニケーションはいいでしょうが、正しくそれを伝えることを教えなくてはいけないと思います。今後そのように教育していきたいと思います。